

## 研究のまとめ 特別支援教育部 通級指導部会

### (1) 研究目標

通常の学級に在籍する，特別な支援を必要とする児童への，言語領域に関する効果的な個別指導の在り方を探る。

### (2) 具体的な手だてとその成果・課題

児童の実態調査・諸検査の実施

< 成 果 >

- ・ WISC- 知能検査，K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー，構音検査等により，児童の発達の実態や特性を把握し，指導方法に得意な認知能力を活用することができた。
- ・ 学級担任に児童の発達の実態や特性を知らせ，確認し合うことができた。

< 課 題 >

- ・ 年間指導計画の中に検査の種類や実施時期を予め位置付けて計画的に行う。

在籍している通常学級での児童の課題把握及び共有化

ア．保護者や在籍学級担任との話し合い

< 成 果 >

- ・ 児童の課題の所在を様々な視点から捉え，それぞれの指導役割を確認することができた。

< 課 題 >

- ・ 自校通級の児童の学級担任，保護者，ことばの教室担当の三者の話し合いの設定が難しかった。

イ．在籍学級の授業参観（対象児の補助として授業に加わる）

< 成 果 >

- ・ 集団の中で学習する上での配慮事項を，学級担任と確認し合うことができた。

< 課 題 >

- ・ 学校生活全般の中での児童の課題把握の機会が少なかった。

ウ．ことばの教室の授業参観

< 成 果 >

- ・ 児童が個別指導場面で発揮する力を，保護者や学級担任に知らせることができた。

エ．「連絡ノート」の活用

< 成 果 >

- ・ 家庭，学級，ことばの教室それぞれでの児童の様子を互いに把握することで，児童理解が深まり，その内容をヒントに児童のコミュニケーション意欲を引き出すこともできた。

在籍している通常学級での学習につながる指導内容の導入

学習内容の確認やリハーサルの学習の導入，発表の機会への配慮等

< 成 果 >

- ・ 学級での学習内容を教材として活用することで，通級時間中の学習の遅れを最小限に留めることができた。
- ・ ことばの教室で取り組んだ学習を学級の学習に生かすことができ，児童に自信を持たせることができた。

< 課 題 >

- ・ 通級時間の在籍学級での学習内容を把握する手立てを工夫する必要がある。
- ・ ことばの教室で取り組んだ学習を学級で発表する機会の計画的設定ができるよう，働きかけていく。

チェックリストの作成と検証

< 成 果 >

- ・ 児童の学級内での様子，児童自身の受け止め方，言語について変容を知ることができた。

< 課 題 >

- ・ チェックリストへの記入を含めた年間指導計画について，学級担任と共通理解を図る会を設定する。